

ジェームス・ダン

(ジェームス・ダンは、直江津小学校校歌の作曲者です) 令和3年10月18日



私の持久走の思い出 ～初めてもらったメダル～

校長 長谷川 明寿

誰しも持久走大会（マラソン大会）には様々な思い出があるのではないのでしょうか？私にも忘れられない思い出があります。それは小学校6年生の時です。私の母校は南本町小学校です。当時は1000人規模の学校でした。持久走は運動会の種目の中にあり、各クラス数名の枠で選ばれた子が参加する形態でした。どちらかという得意な子が出るイメージです。確か私のクラスは枠がうまらずに、私は特段足が速いわけでもなく他の種目もぱっとしなかったもので、残りの枠を埋めるために持久走種目に登録されてしまいました。正直、持久走は苦しいし、嫌な気持ちで一杯でした。それを家に帰って話すと、「どうせやるからには、目標をもってやってみれば」と父親に励まされました。

目標というか、持久走の上位10人には、メダルが授与されることになっていました。（他の運動会種目はリボンのみ）ですから、その「メダル」が子ども心に憧れでした。得意な人が走る種目で10位内は、「無理だろうな」と最初はあきらめていました。それでも父の言葉から、走るからにはやる気のない走りはできないと一念発起し、自分なりに秘密練習をすることにしました。それは、夜のグラウンドで毎日、本番と同じ距離を走る練習です。母も練習に付き合ってくれてタイムを計ってくれました。10日間くらい続けたでしょうか。日に日に持久力とペース配分が身についてくるのが自分でもわかりました。

そして運動会当日、緊張の中、持久走がスタートしました。いつもならすぐにはばてるのに、前の選手についていける自分に少し驚きました。最後の一周は歯を食いしばって全力でゴールしました。そして番号札を見たら何と7位でした。これはメダル圏内です。私は、飛び上がって喜びました。その時の校長先生がメダルを授与してくれるときに「よくがんばったね」という言葉が今でも耳に残っています。

思い返せば、今までの自分の人生で「目標を持って努力することの大切さ」を知ったのは、この出来事が原点だったと思います。このメダルは私の人生でいただいた最初で最後のメダルでした。（笑）この時ももらったメダルはもうどこにあるかわかりません。それでも、私の心の中では、いつまでも輝くメダルとして存在しています。

直小の子ども達にも、様々な学びや体験のなかで「やればできる」という原体験を自らつかみ取ってほしいと思います。秋晴れで青い海が見えるコースを、がんばって走りぬく直小の子ども達にそんな思いを込めて拍手とエールを送りました。

150周年記念式典 迫る！

今月30日には直江津小学校150周年記念式典も迫ってきました。ピアノコンサートと児童発表部分を割愛するなど内容を縮小します。感染防止のため苦渋の決断となりました。どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。ベヒシュタインピアノコンサートについては来年度、保護者、地域の皆さんをお招きしての開催を計画しています。是非、楽しみにしてください。また、150周年記念事業においては、保護者並びに地域の皆さまからたくさんの寄付金をいただきました。皆様の当校に対する深い愛情に感謝の気持ちで一杯です。子どもたちのために、さらに直江津小学校が発展していくため活用させていただきます。年度終わりに収支など会計報告を学校たよりにてお知らせします。有難うございます！

150周年事業⑥

～創立130周年 平成13年度 壁面画制作の写真お持ちの方～

平成13年度に当時の6年生が親子活動で「壁面画」を作成しました。9月2日付の上越タイムスの記事でも紹介されましたが、それをパネルにして、地域交流ギャラリーに展示しました。**地域の皆様の中に、当時の活動写真や壁面のスナップ写真などお持ちの方、いらっしゃいませんか。**残念なことに、学校に記録写真がありません。学校でコピーをさせていただき、パネルとともに展示したいと考えています。(学校 TEL 5 4 3 - 2 6 4 5)



20年前に描かれた創立130周年記念制作の壁画

直江津 余吾村

世相と児童の思い表現

上越市立直江津小

二つの創立記念制作壁画



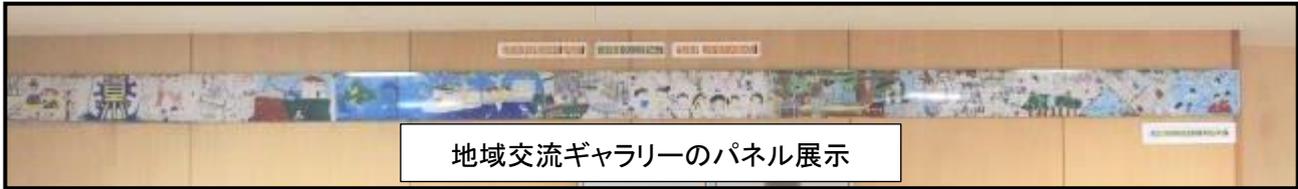
今年7月に完成した創立130周年記念制作の壁画

上越市立直江津小 校長 児島まさる 人の児童降口がある西面校門の壁面には、創立記念制作の新旧壁画があり、当時の世相と時代の姿を映し出している。

新しい壁画は「メモリアルウォール」と題し、今年創立150周年に当たり昨年度から生徒が原画と美術大の顧問の下絵を基に、本年度に入り全校児童が分担作業で仕上げた。長さ約20メートル、幅約1.5メートルの壁面画。児童達の思いや花火などさまざまな形を表現している。一方、橋を挟み南側の壁面

直江津の壁画は、創立130周年当時の6年生が親子活動として制作した。タイトルは「かがやく未来」。学校生活の様子をはじめ、校歌の歌詞の趣向をこの壁面に盛り込んだ。絵は作曲家のシエラ・タン同校の美術部メンバー。また、筆談「直江津」博多駅前の大聖堂や大聖堂の鐘の音の未来像、「国際化」「情報化」「J・C・O」の言葉などもこの壁画が描かれ、想像力がある。

二つの壁画はその時々を学校の様態を背景に、子ども達の思いが表現され、校史の「ページ」を伝えている。

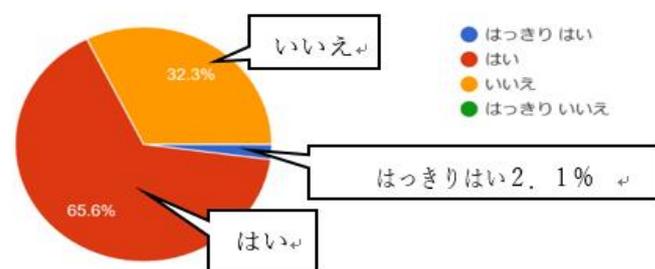


子育てコラム No.1 「親子で敬語？」

7月の保護者アンケートの結果から

4 日頃からいい言葉遣いに気を付け、子どもに手本を示していますか。

96件の回答



回答	割合
はい	65.6%
いいえ	32.3%
はっきりはい	2.1%
はっきりいいえ	2.1%

「はっきりはい」はわずか2%。「いいえ」は32%という結果となりました。なかなか親子で丁寧な言葉遣いをするのは難しいかもしれません。子どもを強い口調で叱ってしまう。「ムかつく」「何言ってるの?」「早くしろ!」などの言葉をついつい言ってしまう。そんなこともあるかもしれません。決して親子で敬語を使ってほしいということではありません。相手の心を傷つける「チクチク言葉」を、励ましたり、認めたりする「ふわふわ言葉」に変換してみてください。子どもは大人の会話を聞いています。そして、その言葉を家庭以外の場所でも使います。子どもの「ふわふわ言葉」が増えるように、少し心に余裕をもって子育てしたいものですね。